

全戦没者を悼み平和を願うつどい二〇一四が開催

八月四日(月)午後六時半から、『全戦没者を悼み平和を願うつどい二〇一四』が、西本願寺高岡会館礼拝堂で開催され、今回で二十一回目を迎えた。テーマは『沖繩からの問い』私たちは沖繩とどう向き合うのか』。約九〇名の参加者と共に、西岡孝了教務所長の調声のもと、第三・第四ブロック(砺波・糸岡・若神・川上・氷見・氷見東・氷見西組)の出勤をいただき、第一部『全戦没者追悼法要』が勤修された。各教化団体代表者をはじめ、つどいに参加された方々全員が正信偈のお勤めの中、焼香をされた。



引き続き第二部の『平和を願うつどい』では、知花昌一さん(沖縄県読谷村・真宗大谷派僧侶)よりお話をいただいた。

(写真) はじめに 知花先生は、沖繩の楽器である三線を使い歌を披露。そして沖繩のこころは「命どう宝」(命こそ何に代え難く大切である)と話された。これは琉球王国最後の王様である尚泰王が明治政府の軍隊によって連れられていく時に部下に向かって言った言葉であるが、「命どう宝」は沖繩のこころだけではなく、人類普遍の願いであり、法蔵菩薩の願心そのものであると言われた。

そして沖繩地上戦で生き延びた兵士や、洞窟の中で自分の子供を殺し死にきれず生き延びた母親の話がされ、生きる過程の中で「命どう宝」が、自分との葛藤の中で歩み出していく精神的拠りどころになったと述べた。

また、「尊い犠牲という言葉を使われるが、尊いのは命であって、生き延びた人たちが日本をつくってきたのではないか」と言われ、「亡くなった方が生きていればもっと素晴らしい社会が実現したはずだから、戦争によって命が失われたことが悔しくてならない」と戦争を終わらせる機会があったにも関わらず、国体維持のために国民の大切な命が無駄に費や

されたことが悔やまれると言われた。さらに現在の集団的自衛権にも触れ、ここでいう集団とはアメリカの要請に従って戦争をすることであり、非常に悲しいことであると述べられた。

その後も今の沖繩は、構造的差別(沖繩に米軍基地があることが当然という意識で社会的・歴史的に作られた差別)であること、沖繩の民意が反対にも関わらず、辺野古に新基地建設を強制的に行おうとしている琉球処分が行われていると言われ、「本当の怒りとは深い悲しみの中から起こってくる」「法蔵菩薩の願心とは如来の怒りをあらわす心である」と話され講演は終了した。

参加者からは、「沖繩の生の声が聞けて良かった。今後に関心を持ちたい」「沖繩の方々の怒りは自分の身におきかえても理解できる。でも、どの様に寄り添えばいいのかわからない」等の声が聞かれた。実践運動教区委員会では今後も、時局の問題への対応ということも含め課題として取り組んでいく予定である。



「中央教修了者のつどい」が開催

去る七月二十六日(土)西本願寺高岡会館にて「中

央教修了者のつどい」が開催され、門徒推進員二十
六名が参加し、学びを深めた。

今回は「門徒推進員、今、必要な取り組みとは」を
テーマに研修が行われ、門徒推進員の松原武さん(若
神・教区常任委員)が問題提起をされ、それを受けて
話し合い法座が持たれた。

問題提起で松原さんは、「私が門徒推進員となつた
のは一〇年以上も前ですが、その時から『門徒推進員
の活動とは何か?』という研修テーマはずっとありま



した。一〇年たつ
た今でも考えこむ
のが正直なところ
で、恐らく『これ
こそが門徒推進員
の活動』という決
まった形はないの
だろうと思いま
す」「寺院と門徒
の関係など様々な
問題が有りますが、
私は仕事で部落差
別問題と関わるこ
とになり、この問
題の深刻な現実を

目の当たりにするようになりました。そ
れ以来、私は部落差別問題は外せない問
題だと思っています」と提起された。

話し合い法座で部落差別問題に対するが意見
が中心となり、「なぜ仏法の話なのに部落差別問
題が関係有るのか」「地方によっては未だに敵し
いと聞くが、富山県には無いのでは。」「部落差別
を受けてきたある方が、院号を申請しようとした
ら、住職に『必要ないでしょ』と言われた」「正
直、差別の話はしたくない」と、部落差別問題
に対する拒否感が多勢を占めた。

助言では講師の城野至界さん(伏木組善證寺衆
徒・同朋運動企画専門委員)が、「なぜ、部落差
別の話をしたくないのか、それは差別が最低の行
為だと知っていると共に、実際には自分たちに何
らかの関わりがある問題だということを自覚し
ているからです。この富山県に実際に差別がある
からこそ言えないのではないのでしょうか」と助言
し、また、寺院の中にも差別が存在し、それが門
信徒にも伝わって、さらなる差別構造を生んでい
ると指摘された。「良い寺とは門徒に嫌な思いを
させない寺だと思えます。『門徒推進員、今、必
要な取り組み』とありますが、門徒推進員でお互
いのお寺に行き来し、互いのお目付け役に鳴って
欲しい。おかしいことをおかしいと思う視点、歪
みに目を向けて言って頂きたい」とまとめられ、
閉会した。

非戦平和公開学習会を開催

七月二十日午後、ヤスクニ問題専門委員会が企
画した非戦平和公開学習会が開催された。今回は

廃仏毀釈の影響を受けた長慶寺(富山市五艘)、
富山市西町にある中教院跡、東西富山別院の見学
を行った。はじめに、参加者は長慶寺にある首だ
け大仏を見学(写真左)、続いて中教院跡と大
谷派富山別院へと移動し、今回の講師の石川正穂
住職(真宗大谷派玉永寺)より説明を受けた。

石川さんは、廃仏毀釈は明治三年、林太仲が大
参事(現在でいう副知事)に任せられ、富山に着
任した後、弾圧の激しさが増したと説明。当時一
ヶ月が一般的であった永代経は七日間までとし、
士族の女性

の寺参詣を
禁止にする
など、様々な
禁止措置を
おこなった。
また、合寺令
を發布し富
山藩内にあ
る四百ヶ寺
の寺院を各
宗一ヶ寺と





して合
計八ヶ
寺に合
併。合
寺強制
後、寺
院の建
物をな
くさせ
る一方、
還俗を
願ひ出

た各宗十七ヶ寺に対しては、建物を下賜した。しかし翌年、激しい抵抗に会い、合寺令は頓挫、富山藩の消滅とともに、県が引き継ぎ、明治五年には七十戸以上の寺院が、明治九年には七十戸以下の寺院の再興が認められた。明治十年代に入り、東西富山別院は別院となり、現在隣同士となっている。石川さんの講義後、参加者は、本願寺派富山別院本堂内にある廃仏毀釈をテーマにした絵画や大谷派富山別院境内地にある別院創立記念碑「振起」(写真右)を見学し終了した。今回は八月二十六日(火)午後7時より、西本願寺高岡会館礼拝堂にて四回目の公開学習会が行われる。

次世代を担う「念仏申す朋友」の継承者

「仏教壮年育成研修会」

仏教壮年連盟は七月二十日「仏教壮年育成研修会」を高岡会館において開催しました。今回のテーマは「み教えの継承と次世代の育成へ向け」と題して十三単位壮年会から三十名の参加で全一日にわたって熱心に意見を交わしました。午前中は仏教連盟講師である義本弘導さん(大阪教区交野組浄光寺・本願寺派布教使)から「仏教壮年の課題と求められる取り組み」について問題提起を受けました。その中で、連盟が結成されて六年が経過し、連盟綱領が掲げる「親鸞聖人のみ教えに聞く」「念仏申す朋友の輪を拓げる」「心豊かに生きる社会の実現をめざす」活動がこの間において各個人、単位仏教、組・教区でどうであったかを振り返る大切さを強調されました。



午後からは、高岡教区仏教連盟に限らず全国から単位仏教個人までが直面しています。高年齢化と組織の拡大の停滞について焦点を当て、これまで「私たちは何をし、何をしてこなかったのか」の率

直・大胆なテーマで三時間にわたり討論をおこないました。この中では、自分たちが仏教壮年会との出会いを振り返るとともに、次世代を担う「念仏申す朋友」の継承者とは誰を意識し、そのための活動づくりを確認しました。今回の研修での討議を研修会のみで終わらせず、単位仏教での討議にまで深め、その意見を理事会に還元してゆくことも併せて確認しました。最後に本願寺仏教壮年会が発行しました「うなずいてくれる朋友がいます」の短い文章を全員で読み合わせ研修会を終えました。(仏教連盟理事長 小竹勝則)

第20回ダーナ・バザーのお知らせ

日時 8月24日(日)午後2時~4時

場所 西本願寺高岡会館礼拝堂

主催 教区寺族青年会(鸞翔会)

教区内寺院より寄付された砂糖や乾物などの食品から食器・洗剤などの日用品を格安にて販売し、収益金を県内の福祉作業所や東日本大震災の支援金として寄付させていただきます。当日お越しく下さい。

全国真宗青年のつどい北海道大会

七月二十六、二十七日、北海道の札幌別院において、休憩後、地方では最後の「全国真宗青年のつどい北海道大会」が開催された。テーマは「大自然 仏青よ未来を描け！」、高岡教区六名を含む全国から二五〇名余りという本堂でのフ

開会式では、今年の六月に法統を継承された大谷光淳ご門主臨席のもと宗祖讃仰作法音楽法要にもとづいて「おととめ」が行われ、参加者全員で唱和した。

続いて大会プロ

グラムに入り、実

行委員会のメンバ

ーが中心となった

朗読劇『北の国で

は』〜2014・

自然（じねん）〜

が行われた。これ

は、倉本總原作「北

の国から」をモチ

ーフにしたもので

ある。参加者は、

なじみがあるお話

しだけに興味深く

聞き入った。

休憩後、

テラコレ

二〇一四

という本

堂でのフ

アッショ

ンショー

が行われ

た。（写

真）この

ファッショ

ンショーでは、

本堂を意識してか和装

中心のショーであり、

最後に仏青連盟が進めてい

きたいとしている仏前結婚式（模擬）が行われ、

終了した。

その後、会場を京王プラザホテル札幌に移して

懇親会が行われ、

歓談中に北海道にまつわるクイズがテーブル対抗で行われ、

上位三チームには北海道銘菓が贈られた。

二日目は、「若者よ未来を描け」というテーマで

基調講演があり、

弁護士の大平光代さんが、自身の半生と仏教との出遇いを話された。中学時代いじめにあった大平さんは、不登校となり、居場所をなくし暴力団の世界へと入ったが、更生し猛勉



強の末、弁護士となった。その後、中央仏教学院在学中に、当時の大阪市長から助役（副市長）就任をお願いされ、大阪市職員厚遇問題の改革委員会委員長に迷ったあげく引き受けたが、いわれなき誹謗中傷をうけ、市長の出直し選挙に伴う辞職とともに自身も辞任した。その混乱した中、中央仏教学院時代に学んだ親鸞聖人の教えが、自身の心に深く響いたこと、大阪のためだと思って改革を断行していたことが、自分がただよく見られたかと思っただけではなかったのかと言われた。

そして戦後、いじめや自殺など、子ども達にいろいろの問題が出てきたのは、国による宗教教育がなくなったことによるものではないかと述べられた。

講演終了後、参加者は班別で話し合いし、これからの仏教青年の方向性を話し合い二日間の大会は終了した。次年度からは、全国大会は一旦休止されるため今大会が最後の大会となるが、本山仏教青年連盟では、今後の大会のあり方を含め検討していきたいとしている。



御同朋の社会をめざす運動のコーナー

「全戦没者を悼み平和を願うつどい二〇一四」に参加して

八月四日、敵味方を超えた全ての戦没者を悼み、二度と戦争を起こしてはならないとの願いを込めた「全戦没者を悼み平和を願うつどい」が開催されました。（一頁参照）今年は二十一回目をむかえ、ご講師に沖縄県在住の平和運動家で真宗大谷派僧侶の知花一昌（昌一）氏をお迎えし、「沖縄からの問い」私たちは沖縄とどう向き合うのか」というテーマでお話をいただきました。


講演では、沖縄の歴史と現実を知ることができ、改めて自身が沖縄とどう向き合っていたかが問われました。明治以降、五回に渡る「琉球処分」で沖縄は差別され犠牲を強いられ、命を踏みにじられたこと。あるいは、沖縄の基地は、兵器が発達した現代ではもはや抑止力にはならず、他の地域あるいは海外に移転しても何の問題もないこと。また、経済にしても、基地が返還されてからの方が雇用も増え、税収も多くなったこと。さらに、沖縄の基地に対する経済的依存度も今は四％であることなど、マスコミ等の報道で知ることのできない事実を聞くことができました。私たちは、このような事実を知らないまま、「抑止力の為に沖縄に基地は必要」とか「基地があることによつて、沖縄は経済的恩恵を受けている」と言つて、沖縄に基地があることを黙認していたのではないのでしょうか。

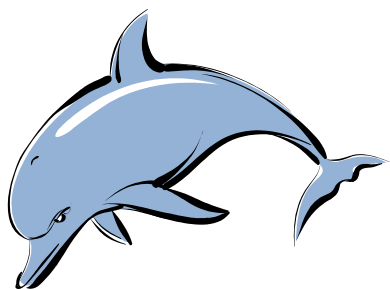
講演の最後のほうで、知花氏は「怒り」ということについて話してくれました。本当の怒りは深い悲しみの中から起こってくるもので、法蔵菩薩の願心とは、如来の怒りをあらわす心で

ある、ということですが。確かに、法蔵菩薩は二百一十億におよぶ国土の様子をつぶさに学び、あらゆる仏たちでも救い得なかつた人々の苦しみの現実を目の当たりにし、その深い悲しみの中から静かな怒りの心を起こして四十八願を建立されたのだと言えると思います。だからこそ、『仏説無量寿経』では、四十八願を発願された後の法蔵修行の場面で、わざわざ「欲覚・瞋覚・害覚を生ぜず（修行された）」と書かれているのでしよう。親鸞聖人も『顕浄土真実教行証文類』の「後序」にて「主上臣下、法に背き義に違し（中略）罪科を考へず、猥りがはしく死罪に坐す」と深い悲しみの中からの怒りの心を告白し、また『正像末和讃』の「悲歎述懐讃」においても同様の心を窺い知ることが出来ます。沖縄の人々の「怒り」も同様であつて、長年にわたり差別され犠牲を強いられ、命を踏みにじられたことによる深い悲しみの中から出てきたものでした。

問題は、そんな「怒り」の心に対して、私たちはどのように向き合ってきたのか、ということですが。「怒りの心を起こすのは、感謝やおかげさまを知らないからだ」として、「感謝やおかげさまを忘れずに、心豊かに生きましょう」と言つて、その「怒り」の心を抑え込もうとしていたのではないのでしょうか。確かに、突発的で薄っぺらな怒りは良くないと思いますが、深い悲しみからの「怒り」には真摯に向き合っていくことが大切です。そして、その思いを共有して周りに伝え、少しでも現実の濁世を変革していくことが求められています。

これからの日程 (8 / 1 8 ~ 9 / 2 0)

8月		
18	ヤスクニ問題専門委員会	龍谷大学宗学部巡回
20	ブロック講社研修会 (~ 2 1 ・磯はなび)	(1 8 ~ 2 7)
21	寺院女性会連盟役員会 仏教学会例会	
22		
23	寺青ダーナ・バザー準備	B 保育大学講座
24	寺青ダーナ・バザー	(~ 2 4 ・岐阜)
25	僧研スタッフ研修会	
26	非戦・平和学習会 (4 回目)	
27	長寿苑ビハーラ活動 仏婦・寺女合同研修会	連区ビハーラ協議会
28	(~ 2 8 ・磯はなび)	(~ 2 8 ・石川)
29	高寿会総会	14 日の常例法座は
30	本山杯懇親会	ありますが、8月
31	本山杯野球大会	14~17 日まで、教
9月		務所事務休業いた
1	ハンセン病療養所訪問	します。
2	(~ 2 ・草津)	
	仏婦広報委員会	連区仏青研修会
3	雨晴苑ビハーラ活動	(~ 7 ・岐阜)
5	寺青役員会	
6		連区少年指導者研修会
7		(~ 9 ・高岡)
8	連区コーラス練習日	連区布教使研修会
9		(~ 1 0 ・石川)
10		北陸ブロック組長会
11		(~ 1 2 ・富山)
12	僧侶研修会 (1 回目)	
13	僧侶研修会 (2 回目)	
14	常例法座	
16	教区コーラス練習日	仏婦幹部研修会
17	1 5 回平和を願うつどい (築地本願寺) 千鳥ヶ淵法要団体参拝	(~ 1 7 ・国府)
18	(~ 1 8)	千鳥ヶ淵全戦没者追悼 法要
20	寺女研修会	



ラジオ放送 ~ 西本願寺の時間 ~

『みほとけとともに』

北日本放送 (K N B) ・ 7 3 8 k H z .
毎週土曜日 (本山制作) 午前 6:15 ~ 6:25
第 2 ・ 4 日曜日 (富山・高岡制作) 午前 6:00 ~ 6:10

8 / 1 6 (土) : 釋 徹宗 氏 (大阪府・如来寺)

「お寺に住まう人の呼び方」

8 / 2 3 (土) : 釋 徹宗 氏 (大阪府・如来寺)

「お寺に住まう人」

8 / 2 4 (日) : 青雲 乘英氏 (高岡教区・光覚寺)

8 / 3 0 (土) : 釋 徹宗 氏 (大阪府・如来寺)

「お寺に相談」

9 / 6 (土) : 釋 徹宗 氏 (大阪府・如来寺)

「ふり幅をもって生きる」

9 / 1 3 (土) : 未 定

9 / 1 4 (日) : 未 定 (富山教区)

9 / 2 0 (土) : 未 定

【西本願寺高岡会館9月の常例法座】

ご講師: 寺 田 章 次 氏

(東北教区・徳源寺)

ご講題: 『いのちの行方(ゆくえ)』

午後 1 時 2 0 分頃からビデオ上映、2 時から
お正信偈六首引のお勤めです。どうぞお誘い
あわせてお参りください。

お知らせ

『法輪せんべい』販売について

お茶菓子やご法事・ご法座の折のお扱いにいかがでしょう
か。お申し込み先は下記のとおり。

FAX. での申し込みも承ります。どうぞご利用下さい。

一袋二枚入りで価格は次の通り

一袋二枚入りで価格は次の通り

・特大箱 (1 7 5 袋) 8 , 3 0 0 円

・大 箱 (3 6 袋) 2 , 3 0 0 円

・1 組 (1 0 袋) 5 0 0 円

お申込み先は・・・〒933 - 0003 高岡市能町 1 2 9 8

耳浦 康真 (本誓寺) Tel. & Fax. (0766) 23 - 9822